

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

| | |
|--|--|
| 名称：ちゅーりっぷハウス | 種別：地域型保育事業 |
| 代表者氏名：工藤 彩 | 定員（利用人数）：9名（利用者8名） |
| 所在地：〒233-0007 横浜市港南区大久保1-16-6サニーハイツ上大岡1階 | |
| TEL：045-842-7817 | ホームページ： https://www.npo-tulip.com/ |
| 【施設・事業所の概要】 | |
| 開設年月日：2012年12月1日 | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：特定非営利活動法人ちゅーりっぷ | |
| 職員数 | 常勤職員：4名 非常勤職員：8名 |
| 専門職員 | （専門職の名称） 名 |
| | 園長 1名 保育士 8名 |
| | 施設管理者 1名 調理員 4名 |
| | 主任 1名 保育補助 1名 |
| 施設・設備の概要 | （居室数） |
| | （設備等） |
| | 保育室 1 トイレ 1 |
| | 調理室 1 園庭 なし |
| 事務室 1 | |

③ 理念・基本方針

・理念

- ◎子どもひとりひとりを価値ある存在として尊重します
- ◎子どもの最善の利益を考慮した保育を行い、ひとりひとり健やかな育ちを支えます
- ◎子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す基礎を培います

・保育方針

- ◎子どもひとりひとりに愛情を持って接し、人への信頼感を育て情緒の安定をはかります
- ◎子どもひとりひとりが健康で安全に心地よく過ごせる環境をつくります
- ◎子どもの育つ力、生きる力を引き出します

・園目標

- ◎心もからだも元気な子
- ◎自分も友だちも大切にする
- ◎感性豊かな子

・保育目標

未来を生きる力を育てよう ～子どもが主役 笑顔いっぱい～

④施設・事業所の特徴的な取組

・駅から徒歩3分という市街地に近い環境です。近隣には多くの保育園や学童があり子どもたちの声があふれています。散歩先の公園で一緒に遊ぶこともあり、子どもだけではなく保育者同士も関わりを持っています。

・系列園も近くにあるため、園庭で遊んだり室内でリズム運動をしたりして研修も兼ねて保育者同士交流をはかります。

・小規模保育園ですので、家庭で家族のように過ごしていけるような安心できる環境となるよう、保育者と一対一での時間を多く持ち丁寧に対応をします。保護者に対しても、送迎時には保育の様子だけではなく保護者の方の小さな悩みを聞き、保護者の方も安らぐ環境をつくっています。保育の様子を写真に撮影し、こまめに掲示したりYouTubeにて保護者限定での動画配信やブログ配信をしたりして、保育の様子を保護者に分かりやすく伝えていきます。

・園庭がないため、毎日のように散歩に出かけます。園前の道路は車通りが激しいため、保育者の人数は多くし安全に配慮しながら散歩を楽しみます。日に日に、保育者や友だちと手をつないで歩く距離も延び、脚力も付き体力強化につなげています。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|-------------------------------------|
| 評価実施期間 | 令和4年1月4日（契約日）～ 令和5年1月4日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | - 回（ - 年度） |

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもが主役の保育を実施しています

1、2歳の低年齢児を受け入れている園です。職員は「未来を生きる力を育てよう～子どもが主役 笑顔いっぱい～」の保育目標の実践に努めています。子どもが自分でやりたい気持ちや意欲を大切にしながら見守り、さりげなく援助しながら、できた時は十分に褒めています。その一方、子どもの甘えの気持ちも尊重しています。日々の保育の中で「あしたもやりたい」という子どもの言葉や、遊びに集中している姿などから、子どもの満足感や納得しているかの把握に努め、子どもが主体であることを共有しながら子どもと関わっています。子どもたちが、担任や調理担当職員、施設管理者、保育スキルアップアドバイザー（法人内3保育園のアドバイザー）のほか、法人内系列園の異年齢児とも関わりながら経験を積めるようにしています。

2)環境を生かした保育を行っています

子どもは天気の良い日は散歩や公園に出かけ、遊びの中で身体を動かしています。園庭がないため、他保育園の園庭で遊ばせてもらうこともしています。公園遊びでは季節により、虫探しや木の実拾いなども楽しんでいます。園内でザリガニやカブトムシを飼育し、命の大切さに触れています。1、2歳の低年齢児のみの保育園ですが、近隣にあるコーヒーショップやエステサロンに七夕の飾りを届けたり、消防署の前を通ったときは挨拶をしたり、地域の店舗へ栽培用の野菜の種を買いに行ったり、地域交流を意識しています。今年度は、隣りの学童保育事業所と合同で水害を想定した避難訓練を計画しており、交流が広がる予定です。

3)保護者と連携をとりながら保育を実践しています

コロナ禍のため、保護者が参加する行事の中止が続いていることもあり、日々の保育が見たいという保護者からの希望を受け、保護者限定で保育の様子を動画配信しました。また、9月には園と各家庭をオンラインでつなぎ、「親子ふれあいタイム」を開催し、皆でリズム運動を行いました。行事後の保護者アンケートでは、「子どもと家でリズム運動ができ楽しかった」との声があり好評でした。また、保護者の協力を得て、手作り弁当を食べる日を設けており、低年齢の子どもにも特別感を味わえるようにしています。園で撮った写真は、年度末に一人ひとりにアルバムにまとめて渡しており、保護者からとても喜ばれています。

4) 人員体制の強化が期待されます

園では新年度の人材計画の時期が遅くなり、人員確保に無理が生じていると考えています。人事管理は運営を行う上で非常に重要な事項です。人材の確保、育成等は中長期的な展望を明確にしなが、職員体制や職員の働く環境を年度単位で段階的に整備し、充実した体制による保育運営が行われることが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、初めて第三者評価を受審させていただきました。自己評価を各自行っていくなかで、実は理解できていなかった箇所もあり反省点、改善点が多く見つかりました。理事長も含め職員間で、一つひとつ確認し合うなかで改めて法人の理念を理解し、本園の保育方針等を再確認することができました。また、職員間で話し合いを重ねることで、互いの保育の考えを受け入れ合い、勉強し合う機会にもなりました。今回の受審結果を受け、本園の前園長でもあるスキルアップアドバイザーの力が本園には大きいと感じております。アドバイスを受け、日々試行錯誤しながら取り組んできた保育に自信を持つことができました。更なる保育の質向上に向け、全職員で改善していきます。最後に、第三者評価受審に際し、お忙しいなかアンケートにご協力していただいた保護者の皆さま、ご尽力いただいた評価機関の皆さまに心より感謝いたします。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり